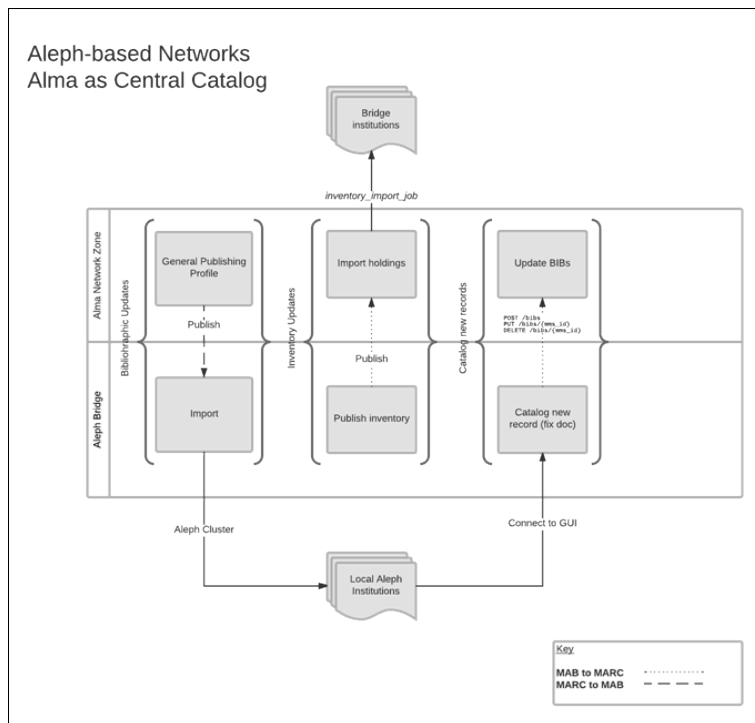


Alephメンバーと統合するためのAlmaネットワークゾーンの設定

このドキュメントでは、ネットワークゾーンがAlmaネットワークゾーンにあり、一部のメンバーが図書館システムとしてAlephまたはAlephinoを使用するハイブリッドコンソーシアムをサポートするために必要なワークフローと設定について説明します。この場合、Almaネットワークゾーンはすべての書誌および典拠レコードのマスターです。したがって、Almaネットワークは、すべての目録と、他のメンバーが使用する書誌データの公開を担当しています。各メンバーは、自身のインベントリのプライマリユーザーです。各メンバーの目録情報でネットワークを最新の状態に保つために、Alma以外のメンバーは、Almaネットワークゾーンにも目録情報を公開します。

この統合の構成要素は、以下で構成されています：Almaネットワークゾーン、Alephブリッジ機関、Aleph/Alephinoメンバー、Almaメンバー、及びAlma内のAleph/Alephinoメンバーを代表するAlmaブリッジ機関。

次の図は、この統合が提供するワークフローを示しています：



セントラル目録としてAlmaを使用したAlephベースのネットワーク

Alephメンバーと連携するようにAlmaネットワークゾーンを設定するには、3つの手順を実装する必要があります。それぞれ、AlmaおよびAlephでの設定が必要です：

- 書誌レコードの同期
- AlephメンバーからのAlmaネットワークゾーンの書誌レコードの目録化
- AlmaネットワークゾーンへのAlma以外のメンバーの目録情報のインポート

書誌レコードの同期（AlmaネットワークゾーンからAlephブリッジへ）

Alma ネットワークゾーンは、コンソーシアムのセントラル目録です。これは、コンソーシアムレコード（書誌および典拠レコード）を制御することを意味します。現在Almaにいないメンバーは、Alephブリッジを引き続きセントラル目録として使用できます。したがって、ブリッジを最新の状態に保ち、Alma ネットワークゾーンと同期する必要があります。

Almaの設定

このセクションでは、Alephブリッジに公開するAlmaネットワークゾーンの設定について説明します。

1. 書誌レコードを公開するために、Almaでセットを作成します。以下にセットの例を示します：
 - 全タイトル（その他のシステム番号=<ISIL code of the organization>）
 - すべてのタイトル（タグ非表示 = No）
2. 以下のテキストを入力して、Alephブリッジでマッチングが正しく実行されるように、正規化ルールを作成します。このルールは、レコードの一意の識別子が001に配置され、Almaの一意の識別子が035に配置されるように、公開されたレコードを変更します。

```
rule "Copy MMS ID from 001 to 035" priority 2 when (TRUE) then addSystemNumber "035.a" from "001" prefixed by "" prefix "035.a" with "(ALMA)" if(exists "035.a.99*") removecontrolField "001" end rule "Move AC number from 035 to 001" priority 1 when (exists "035.a.<isil code>*") then removeControlField "001" if(existsControl "001") copyField "035.a" to "999.a" if (exists "035.a.*<isil code>*") replaceContents "999.a.<isil code>" with "" copyControlField "999.a" to "001" removeField "999" end
```

正規化ルールの詳細については、[正規化ルールの使用](#)を参照してください。

3. 設定した正規化ルールを使用する正規化プロセスを設定します。詳細については、[プロセスの設定](#)を参照してください。
4. 次の詳細を使用して公開プロファイルを作成します。公開プロファイルの詳細については、[公開プロファイル](#)を参照してください。
 - プロファイル詳細
 - スケジューリング：毎時
 - 公開モード：増分
 - 公開先：書誌レベル
 - 出力フォーマット：MARC 21書誌（レコードには、Alephブリッジ側で、MARC 21からMABへのクロスワークが行われます）
 - 公開プロトコル：FTP（公開されたファイルはAlephブリッジFTPに配置されます。これらのファイルは、Alephのジョブリストに読み込まれ、自動的にAlephブリッジ目録内へ処理されます。）AlmaでのFTPアカウントの設定の詳細については、[S/FTP接続の設定](#)を参照してください。
 - データ充実化

正規化ルールを使用してデータを修正するフィールドで、BIBレコードの公開、と入力します。

5. BIBリダイレクトフィールドを設定します（設定 > リソース > 目録）：

BIB Redirection Fields (Merge Records & Combine Inventory)

This is a configuration screen for storing the secondary record identifier within the primary record when performing merge & combine of BIB records

Merged Record ID Tag * Subfield *

Identifier Type * System Identifier Prefix *

この設定表は、Alma ネットワークゾーンで、書誌レコードの統合および目録の結合のアクションが実行されるときに、BIBレコードをアップデートするためのパラメータを設定します。データがAlephメンバーに複製されるように、BIBアップデートの情報（リダイレクトデータ）がAlephブリッジに公開されます。

この設定テーブルに入力された値は、プライマリレコード（統合が行われたレコード）内のセカンダリ書誌レコード（メインレコードに移動されるレコード）のレコードIDを格納するポリシーを定義します。

1. 統合レコードIDタグとサブフィールド フィールドで、セカンダリレコードのBIB IDを格納する プライマリレコードのBIBフィールドとサブフィールドを入力します。
2. 識別子タイプフィールドで、その他のシステム番号（035\$\$a）を選択します。
3. システム識別子プレフィックスフィールドで、システム識別子プレフィックスを選択します。

詳細については、[BIBリダイレクションのフィールドの設定](#)を参照してください

Alephの設定

このセクションでは、AlephでのAlmaからの書誌レコードのロードについて説明します。これには、新しい書誌レコードのロード（Alephデータベースでの一致なし）、既存レコード（Alephデータベースでの一意の一致）の更新、および既存レコード（Alephデータベースでの一意の一致）の削除が含まれます。

1. 001フィールドには索引を付ける必要があります。oo1索引が./[bib_library]/tab/tab11_ind. に存在することを確認するために、次のように入力します：

```
! 1 2 3 4 5 6 7 8 !!!!!-!!!!-!-!!!!!!!!!!!!-!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!-! 001 IDN
```

2. ./[bib_library]/tab/tab_matchの一致設定に次のラインが含まれていることを確認します。

```
! 1 2 3 !!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! IDN match_doc_uid I-IDN ALM match_doc_gen  
TYPE=IND,TAG=001,CODE=IDN ...
```

3. tab_fixのセクション「MC2MB」にMARCからMABへの変換が定義されていることを確認します。

Note

MC2MBセクションは、Alephローダー（管理-18）のパラメータとして使用されます。

以下は、./[bib_library]/tab/tab_fixでのMARCからMABへの変換の例です：

```
!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> MC2MB fixexp_docx_parallel INIT !!-- MC2MB fix_doc_
```

```
clear DUP-FLD=Y MC2MB fix_doc_mab2marc_rm_punct_usm MC2MB fixexp_docx_parallel
COPY,PTR-FROM=0,PTR-TO=M MC2MB fix_doc_convtpb FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.pre_
01 MC2MB fixexp_docx_parallel COPY,PTR-FROM=0,PTR-TO=O !!-- MC2MB fix_doc_convtpb
FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.49dnb_p0_tt_pp MC2MB fix_doc_convtpb FILE=alma_obvsg.
convtpb.bib_marc2mab.49dnb_p1 MC2MB fix_doc_convtpb FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.
49dnb_p2 !!-- MC2MB fix_doc_convtpb FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.post_01 !!-- MC2MB
fixexp_docx_parallel FIXFUNC,fix_doc_convtpb,"FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.osc",PTR-
FROM=O,PTR-TO=O MC2MB fixexp_docx_parallel CAT,PTR-FROM=0,PTR2FROM=O MC2MB fixexp_
docx_parallel FIXFUNC,fix_doc_convtpb,"FILE=alma_obvsg.convtpb.bib_marc2mab.nomapp",PTR-
FROM=M,PTR-TO=M MC2MB fixexp_docx_parallel CAT,PTR-FROM=0,PTR2FROM=M !!-- MC2MB fix_
doc_char_conv_z GND-UTF-TO-UTF MC2MB fix_doc_clear DUP-FLD=Y MC2MB fix_doc_sort !!--
!!MC2MB fix_doc_overlay TMARC2MABI MC2MB fix_doc_sort
```

4. 統合プロセスを設定します。

1. `./[bib_library]/tab/tab_merge`に次のラインを追加します。

```
! 1 2 3 !!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! MRGADV-OBV merge_doc_overlay 20
```

COL 1は手順名で、COL 2は使用する統合プログラムを定義し、COL 3は引数を定義します。

Note

このルーチンは、Alephローダーのパラメータとして使用されます（管理-18）。

2. `./[bib_library]/tab/tab_merge_overlay`に次のラインを追加します：

```
!1 2 3 4 !!-!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! 20 2 N ##### 20 2 Y CAT## 20 1 Y OSC## 20 2 Y OWN## 20 1
Y ##### !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
```

COL 1値20は、`tab_merge` COL 3で設定された引数を指します。

COL 2は統合方向を定義します。2の値は、データベースレコードであり、1の値は入力ファイルです。

COL 3はアクションです：Cは、他の文書に表示されていない場合にのみ、フィールドを保持します。元のレコード（1）に対するYは、フィールドを保持します。コピーされたレコード（2）の場合、フィールドをコピーします。

データベースレコード（COL 2値2）については、入力レコードに表示されていない場合にのみ、既存のフィールドを保持しています。

入力レコード（COL 2値1）については、インプットを保持し、データベースレコードにフィールドをコピーします。

Note

レコードがAlephメンバーから提供されたときにMARC 21レコードの値が上書き/喪失されないようにするために、すべてのフィールドをMARC 21からMABへの変換でマップし、MARCレコードの値をこのインポートプロセスで取得することを強くお勧めします。

5. リダイレクトプロセスを設定します（BIBをBIBに移動します）：

1. `./xxx01/tab/tab_move_record`で、次のラインを追加します：

```
! 1 2 3 !!!!!!!!!-!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! BIB-BATCH BIB-BATCH move_cen_bib_to_bib_batch
```

2. `./aleph/pc_b_lng/p-manage-18.xml`で、次のラインを追加します：

```
<control> <hidden> <argname>F15</argname> <value>882$$$w</value> <size>6</size> </hidden>  
</control>
```

続いて：

```
</dialog>
```

そして、ファイルの最後に次のラインを追加します。

```
<!-- Param: P-REDIRECTION-FIELD X(6). F15 -->
```

Note

上記設定例におけるリダイレクトフィールドとサブフィールド（P-管理-18の「F15」パラメータ）は「882\$\$\$w」です。

これはAlma公開プロファイルで設定され、Alma入力ファイルで提供されたものと同じリダイレクトフィールドおよびサブフィールドタグである必要があります。

3. `./xxx01/tab/tab_z105`で定義されていない場合、RELINK-DOC メッセージをMESSAGE-TYPE=gとともに追加します。たとえば：

```
RELINK-DOC g MAB01 LOC01
```

6. 以下のラインを`./alephe/tab/job_list`に追加して、AlmaからAlephに書誌レコードをロードします。これは、Almaから公開されたファイルを1時間ごとに読み取ります：

```
! 2 3 4 5 6 7 !!-!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!! W2 D1 N untar-alma csh -f /exlibris/aleph/  
a21_1/aleph/proc/untar_files /exlibris/aleph/alma/obv/ /exlibris/aleph/a21_1/mab01/scratch pub_bib_  
record W2 D1 Y MAB01 p_file_02 MAB01,all_new_pub_bib_record,pub_new.seq,06 ! Output File 2 -  
contain those records that find a unique match in the database. W2 D1 Y MAB01 p_manage_36  
MAB01,pub_new.seq,pub_new.seq.out.36.1,pub_new.seq.out.36.2,pub_new.seq.out.36.3,ALM,, W2 D1  
Y MAB01 p_manage_18 MAB01,pub_new.seq.out.36.2,pub_new.seq.p-18.rej,pub_new.seq.p-18.  
log,OLD,MC2MB, ,FULL,MERGE,M,,MRGADV-OBV,master,01,882$$$w W2 D1 Y MAB01 p_manage_18
```

```
MAB01,pub_new.seq.out.36.1,pub_obv_new_alm_nz.rej,pub_obv_new_alm_nz.p-18.log,NEW,MC2MB,  
,FULL,APP,M,,master,01,882$$w !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
```

Note

上記設定例におけるリダイレクトフィールドとサブフィールド（P-管理-18のパラメータ）は「882\$\$w」です。

これはAlma公開プロファイルで設定され、Alma入力ファイルで提供されたものと同じリダイレクトフィールドおよびサブフィールドタグである必要があります。

公開されたファイルはAlephサーバーにあると想定されています。そうでない場合は、ftpユーティリティまたはコマンドを使用してFTPサーバーから転送します。たとえば、次を実行します：

```
wget --ftp-user=USER --ftp-password='PASSWORD' ftp://ftp.exlibris.co.il/Aleph/Pub_Aleph_mab_bib_...  
_new.xml.tar.gz
```

job_listに追加されたラインは次を実行します：

- untar-almaスクリプトを実行し、Almaが公開した削除済みファイルを解凍して、\$data_scratch（〔bib_library〕の下）に移動します。
- p_file_02が、Alma MARC XMLファイルをAlephシーケンシャルファイルに変換します。
- p_manage_36が実行され、セントラルDBで一致するAlephレコードを見つけます。
- p_manage_18は2回実行されます。1回は新しいレコードを追加し、1回は既存のレコードをアップデートします。

job_list.confの最初のパラメータ（W2）をAlmaが書誌情報の公開を毎日実行するように定義し、job_list.confの2番目のパラメータ（D1）を1時間に1回実行するように定義します。

mab01を[bib_library]に置き換えます。

untar_filesのパラメータをご使用の環境の正しいパスに置き換えます。

7. 以下のラインを./alephe/tab/job_listに追加して書誌レコードを削除し、AlmaからAlephへの書誌レコードを削除します。これは、Almaから公開されたファイルを1時間ごとに読み取ります：

```
! 2 3 4 5 !!-!!!!!!-!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!> ! 2 3 4 5 6 7 !!-!!!!!!-!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-  
!!!! W2 D1 N untar-alma csh -f /exlibris/aleph/a21_1/aleph/proc/untar_files /exlibris/aleph/alma/obv/  
/exlibris/aleph/a21_1/mab01/scratch pub_bib_record W2 D1 Y MAB01 p_file_02 MAB01,all_delete_pub_  
bib_record,pub_delete.seq,06 ! Output File 2 - contain those records that find a unique match in the  
database. W2 D1 Y MAB01 p_manage_36 MAB01,pub_delete.seq,pub_delete.seq.out.36.1,pub_delete.  
seq.out.36.2,pub_delete.seq.out.36.3,ALM,, W2 D1 Y MAB01 p_manage_18 MAB01,pub_delete.seq.out.  
36.2,pub_delete.seq.p-18.rej,pub_delete.seq.p-18.log,OLD,MC2MB, ,FULL,DELDOC,M,,master,01,  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
```

公開されたファイルはAlephサーバーにあると想定されています。そうでない場合は、ftpユーティリティまたはコマ

ンドを使用してFTPサーバーから転送します。たとえば、次を実行します：

```
wget --ftp-user=USER --ftp-password='PASSWORD' ftp://ftp.exlibris.co.il/Aleph/Pub_Aleph_mab_bib_...  
_delete.xml.tar.gz
```

job_listに追加されたラインは次を実行します：

- untar-almaスクリプトを実行し、Almaが公開した削除済みファイルを解凍して、\$data_scratch ([bib_library] の下) に移動します。
- p_file_02が、Alma MARC XML ファイルをAlephシーケンシャルファイルに変換します。
- p_manage_36が実行され、セントラルDBで一致するAlephレコードを見つけます。
- p_manage_18が、一致したレコードをAlephから削除します (一致なし=エラー)。

job_list.confの最初のパラメータ (W2) をAlmaが所蔵情報の公開を毎日実行するように定義し、job_list.confの2番目のパラメータ (D1) を1時間に1回実行するように定義します。

mab01を[bib_library]に置き換えます。

untar_filesのパラメータをご使用の環境の正しいパスに置き換えます。

以下はjob_list.confの例です：

```
! 1 2 3 4 5 !!----!-!!!!-!!!!-!!!! W2 W YYYYYYNN D1 D 09:00 21:00 01:00
```

AlephメンバーからのAlmaネットワークゾーンの書誌レコードの目録化

Almaを使用しておらず、Almaネットワークゾーンとのコンソーシアムの一部であるメンバーの場合、Alephはセントラル目録のままです。新規の、アップデートされた、および削除された書誌レコードの目録化は、Alephブリッジで行われます。レコードを目録化するために、ブリッジはAlmaネットワークゾーンを呼び出す必要があります。正常な応答を受信した場合、ブリッジはレコードをローカルに保存することもできます。

Almaの設定

以下は、AlmaネットワークゾーンがAlephブリッジから目録化リクエストを受領できるようにするために必要な設定の概要を示しています。

1. 開発者のネットワークで目録化するためのAPIキーを生成します。

Alma APIを使用する場合、APIキーを提供する必要があります。顧客は、Ex Libris 開発者ネットワーク[Generate API key]から、使用するAPIキーを生成します。このAPIキーは、Aleph設定に含める必要があります。AlmaのAPIを使用する方法の詳細については、以下を参照してください：<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/apis>

2. 一意の識別子を生成します。

Note

この設定は、Alma機関で目録化されたレコードの一意の番号を生成するために必要な設定と同じです。

Almaネットワークゾーンで一意の識別子を作成するには、次の設定が必要です：

1. 次の図に従って制御番号シーケンスを構成します。詳細については、[制御番号の設定](#)を参照してください。

Sequence Name	Method	Prefix	Next Sequence	Padding
1 AC number	Prefix + Sequence	(AFOB)VAC	1000	8

制御番号の設定

2. 次の図に従って、制御番号シーケンスを使用するように正規化プロセスを設定します。詳細については、[プロセスの設定](#)を参照してください。

Business Entity Name	Bibliographic title	Type	Marc 21 Bib normalization
	Generate AC number		

CONTROL NUMBER SEQUENCE

Sequence Name * AC number

Bib Target Field * 035 Subfield a

正規化プロセスの設定

3. MmsTagSuppressed正規化タスクを作成して、AlmaネットワークゾーンでAlma APIを使用して作成されたすべてのレコードが抑制されないようにします。
4. MmsTagSuppressedタスクを使用して、MARC 21書誌の正規化プロセスを作成します。

Note

このプロセスは、目録化プロセスでAlephブリッジによって使用されます。Alephブリッジがこのプロセスを使用できるように、後で必要になるプロセスIDをメモします。

Process Details - General Information Cancel Save

BIB_MMS

Business Entity	Bibliographic title	Type	Marc 21 Bib normalization
ID	43588		

General Information Task List Task Parameters

Name *

Description *

Status

Status Date 2011-06-01 11:35:00.479

プロセスID

Note

レコードを保存する前に、ネットワークゾーンで検証が行われます。検証には、正規化プロファイル保存に対する、MARC 21 Bib一致検証とMARC 21 Bib検証が含まれます。

Alephの設定

Aleph GUIを介してレコードを作成、アップデート、または削除するときにAlmaネットワークゾーンをアップデートするには、次の設定を実行します。

1. `./alephe/pc_server_defaults`に次のラインを追加して、新しい`pc_server-defaults`フラグを設定します。

```
setenv bib_update_alma Y
```

このフラグが定義され、Yに設定されている場合、新たな機能がアクティブになります。

2. 次の設定テーブルを`/alephe/tab/alma_center.conf`に追加します。このテーブルには、ALMA API定義が含まれています。

```
##### ##General Settings
##### [GENERAL] alma_url=<Alma URL>
inst_code=<Inst code> api_url=<API Url> prefix=<ISIL code> validate=true normalization=<Id> api_
key=<APIkey> sru_index=<SRU index name>
#####
```

以下に、テーブルの要素について説明します：

- `alma_url` - ネットワークゾーンのAlmaドメイン、つまり、`http://<Alma domain>`


```

handling for basic fields ALMAU fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_mab2marc.main !!- - -
mab->marc / parallel for original script fields ALMAU fixexp_docx_parallel FIXROUT,MBOS1,PTR-
FROM=B,PTR-TO=1 ALMAU fixexp_docx_parallel PARFUNC,copyfld,"LDR,LDRMC",PTR-
FROM=0,PTR-TO=1 ALMAU fixexp_docx_parallel FIXROUT,MBOS2,PTR-FROM=1,PTR-TO=2 ALMAU
fixexp_docx_parallel PARFUNC,43obvos_catlink,PTR-FROM=0,PTR2FROM=2,PTR-TO=0 ALMAU fix_
doc_mab2marc_synind_880lnk !!----- marc - formal post preparations !!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> !!- - - common post work - 01 ALMAU fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.
convtb.bib_mab2marc.post_01 !!- - - add ISIL to link-ID's ALMAU fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.
convtb.bib_mab2marc.upd_Inkidn !!- - - find no-mapping field (-> 9740[su] $$[FV]... ) ALMAU fixexp_
docx_parallel FIXROUT,MBNOM,PTR-FROM=I,PTR-TO=M ALMAU fixexp_docx_parallel CAT,PTR-
FROM=0,PTR2FROM=M !!- - - sort + clear ALMAU fix_doc_sort_marc21 USECODE=Y ALMAU fix_
doc_clear DUP-FLD=Y

```

セクションMBPR1、MBPR2、MBOS1、MBOS2、およびMBNOMがtab_fixに存在しない場合は、次を追加します：

```

!!===== separate parallel-routines (for MaB to marc) !!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> MBPR1 fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_mab2marc.pre_h_
fields MBPR2 fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_mab2marc.pre_wk_fields MBOS1 fix_doc_
convtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_mab2marc.os1 MBOS2 fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.
bib_mab2marc.os2 MBNOM fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_mab2marc.nomapp

```

ALMALの場合：

```

!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> !!===== main-routine ALMAL (for marc 2 mab)
!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> ALMAL fix_doc_mab_001_from_035 (AT-OBV)
ALMAL fixexp_docx_parallel INIT !!- ALMAL fix_doc_clear DUP-FLD=Y ALMAL fix_doc_mab2marc_rm_
punct_usm ALMAL fixexp_docx_parallel COPY,PTR-FROM=0,PTR-TO=M ALMAL fix_doc_convvtb
FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_marc2mab.pre_01 ALMAL fixexp_docx_parallel COPY,PTR-
FROM=0,PTR-TO=O !!- ALMAL fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_marc2mab.49dnb_p0_tt_
pp ALMAL fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_marc2mab.49dnb_p1 ALMAL fix_doc_convvtb
FILE=alma_obvsg.convvtb.bib_marc2mab.49dnb_p2 !!- ALMAL fix_doc_convvtb FILE=alma_obvsg.
convtb.bib_marc2mab.post_01 !!- ALMAL fixexp_docx_parallel FIXFUNC,fix_doc_convvtb,"FILE=alma_
obvsg.convvtb.bib_marc2mab.osc",PTR-FROM=O,PTR-TO=O ALMAL fixexp_docx_parallel CAT,PTR-
FROM=0,PTR2FROM=O ALMAL fixexp_docx_parallel FIXFUNC,fix_doc_convvtb,"FILE=alma_obvsg.
convtb.bib_marc2mab.nomapp",PTR-FROM=M,PTR-TO=M ALMAL fixexp_docx_parallel CAT,PTR-
FROM=0,PTR2FROM=M !!- ALMAL fix_doc_char_conv_z GND-UTF-TO-UTF ALMAL fix_doc_clear
DUP-FLD=Y ALMAL fix_doc_sort ALMAL fix_doc_overlay ALMA1MC2MB ALMAL fix_doc_sort

```

4. ./[bib_library]/tab/tab_mergeに、次のラインがまだ存在しない場合は追加します。（AA引数が既に定義されている場合、別の引数を使用します）：

```

ALMA1MC2MB merge_doc_overlay AA

```

ALMA1MC2MBは、fix_doc_overlay関数のALMALセクションのtab_fixで定義されているセクションです。

5. `./[bib_library]/tab/tab_merge_overlay`に新しいセクションを追加します：

```
AA 1 N ##### AA 1 Y CAT## AA 1 Y OWN## AA 1 Y OSC## AA 2 Y #####
```

AAはtab_mergeで定義されたセクションです。

Alma ネットワークゾーンへのAlma以外のメンバーの目録情報のインポート

このセクションでは、Aleph BridgeからAlma ネットワークゾーンに目録情報をインポートするために必要な設定について説明します。ジョブは、Alma以外のメンバーの目録情報をAlmaブリッジ機関にインポートします。これにより、ネットワークゾーンは、すべてのAlmaおよびAlma以外のメンバーの目録情報を同じ方法で表示できます。

Almaの設定

以下の情報を使用して統合プロファイルを作成します：

- 目録インポート設定セクション
 - スケジュールオプション-毎日
 - FTP設定
 - 外部システムプレフィックス（035フィールドに他のプレフィックスを持つレコードをフィルター処理する場合 [例（AT-OBV）0000012345]）
- 所蔵マッピングセクション-MAB所蔵情報はいくつかのフィールド（OWN、200）で公開されており、MARC 21所蔵の対応するフィールドにマッピングする必要があります。
 - アイテムマッピングセクション-Alephは、アイテム情報をZ30フィールドにエクスポートします。Aleph設定に基づいて、設定でどのアイテム情報がどのZ30サブフィールドにあるかを指定します。

詳細については、[Alma以外のメンバーの目録を、中央システムからネットワークゾーンが管理するブリッジ機関に統合する](#)を参照してください。

Alephの設定

1. 次のラインを`./[bib_library]/tab/tab_expand`に追加して、Aleph公開に所蔵情報を追加します：

```
!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> ALMAP expand_doc_bib_hol_mab_alma
```

上記の拡張ルーチンは、以下を追加することによって、所蔵レコード情報を追加します。

- サブフィールド0の各所蔵フィールドの所蔵ID。
- ADMコード-OWN\$\$aのサブライブラリコードに基づいてOWN \$\$cに追加されます。

2. 次のラインを`./[bib_library]/tab/tab_expand`に追加して、アイテム（z300）情報をAleph公開に追加します：

```
!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!> ALMAP expand_doc_bib_z30
```

上記の拡張ルーチンは、./[bib_library]/tab/expand_doc_bib_z30テーブルの設定に基づいてすべてのアイテム情報を追加します。

3. アイテムにADMコードを追加するには、アイテムの通常のフィールドに加えて、次のラインを./[bib_library]/tab/expand_doc_bib_z30に追加します：

```
!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!-!!!!!!!!!!!!-! # adm-code y space N # z30-material m space X # z30-sub-library 1  
space N # z30-sub-library A space Y # z30-collection 2 space N . . .
```

3列目は、ADMコードが拡張されるサブフィールドを定義します

。

これは、[Alma設定](#)セクションで作成した統合プロファイルでのAlmaの定義に対応している必要があります。

テーブルには、Almaで定義されたサブフィールドにマッピングされるすべてのアイテムのフィールドの定義を含める必要があります。

4. ./[bib_library]/tab/tab_publishに次のラインを追加して、Alma公開用のALEPHレコードを抽出します。

```
! 1 2 3 4 5 !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!-!!!!!!-!!!!!!!!!!!!!! ALMA-FULL N ALMAP MAB_XML
```

- 。 列1-Almaの公開セットです。
 - 。 列4-レコードが抽出される前に適用される修正/拡張ルーチンです。上記で定義した拡張ルーチンを使用します。
 - 。 列5-公開されたレコードのフォーマットを決定します。
5. プロジェクト実行の開始時に、すべてのレコードに対して初期公開 (**p-publish-04**) ジョブを実行します。これは、GUIサービスから、またはコマンドラインを使用して実行できます。例：

```
csh -f $aleph_proc/p_publish_04 MAB01, ALMA-FULL,000000000,999999999,04,DOC,
```

最初のパラメータで顧客BIB図書館を設定し、2番目のパラメータでAlmaに定義された公開セットを設定します。

6. アップデート日のフラグがYに設定されている実行の初めに、すべてのレコードに対してALEPH公開レコード (公開**-06**) に対してTarファイルを作成するジョブを実行します。これは、GUIサービスまたはコマンドラインから実行できます。例：

```
csh -f $aleph_proc/p_publish_06 MAB01, ALMA-  
FULL,DOC,000000000,999999999,00000000,999999999,,/exlibris/aleph/acc_publish,Y,04,,Y,
```

- 。最初のパラメータで顧客BIB図書館を設定します。
- 。2番目のパラメータでAlmaの公開セットを定義します。
- 。パスパラメータ（9番目のパラメータ）をAlephサーバー上の任意の場所に設定します。

7. お望みの頻度で公開を実行します。継続的な公開を実行するには、次のラインを./alephe/tab/job_listに追加します：

```
! 2 3 4 5 6 7 !!-!!!!!!-!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!!-!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!-!!!! W2 13:00 Y MAB01 p_publish_06
MAB01, ALMA-FULL, LAST-DATE, 000000000, 999999999, 00000000, 99999999, /exlibris/aleph/acc_
publish/, Y, 04,, Y,
```

1. job_list.confで最初のパラメータ（W2）を毎日実行するように定義し、アイテム/所蔵情報をAlephからAlmaに公開します。
 2. mab01を[bib_library]に置き換えます。
 3. 最後の実行からの変更を取得するためにLAST-DATEに3番目のパラメータを設定します。
 4. パスパラメーターをAlephサーバー上の任意の場所に設定します。
 5. アップデート日フラグをYに設定します。
8. 公開されたファイルはAlephサーバーにあります。AlephサーバーからFTP/Almaサーバーに転送するには、FTPユーティリティまたはコマンドを使用して、例えば、次を実行します：

```
wput --ftp-user=USER --ftp-password='PASSWORD' /exlibris/aleph/acc_publish/ALMA-FULL/tar/ aleph.
ALMA-FULL.20171001.084422.1.tar.gz ftp://ftp.exlibris.co.il/Aleph/
```